資料２

■かまくらまちづくり市民シンポジウム（第３回市民対話）の実施状況

１　市民対話の各回テーマと開催概要

かまくらまちづくり市民対話として、第１回及び第２回では、外部講師による講演等の後に、テーマに沿って、グループごとに対話を行う形で進めました。また、第３回はシンポジウム形式で、内容は外部講師による講演等の後にパネルディスカッションを行いました。

日時	講演等	市民対話	参加者
第１回 10月29日 （日曜日）	・東浦亮典（とうらりょうすけ）氏 （東急電鉄(株)執行役員都市創造本部戦略事業部長） 「成熟時代の人間本位のまちづくり指針」 ・増井玲子（ますいれいこ）氏 （東洋大学PPP研究センター リサーチパートナー・鎌倉市公的不動産利活用推進委員会副委員長） 「鎌倉市のまちづくり」 	グループワーク形式で「鎌倉市のまちづくりについて考えてみよう」をテーマに対話。（アンケート実施） 	35名
第２回 11月18日 （土曜日）	・鎌田恭幸（かまたやすゆき）氏 （鎌倉投信(株)　代表取締役社長） 「鎌倉という場の魅力：～『いい会社』をふやす金融の仕組み～」 ・鎌倉市「持続可能なまちづくり」 	グループワーク形式で「鎌倉という場の魅力を皆で考えよう」をテーマに対話。（アンケート実施） 	32名
第３回 12月23日 （土曜日･祝日）	・大島芳彦（おおしまよしひこ）氏 （建築家、(株)ブルースタジオ 専務取締役） 「リノベーションによる市民が主役のまちづくり」 ・鎌倉市「持続可能なまちづくり」 ・パネルディスカッション 	シンポジウム形式で開催。（アンケート実施） 	60名

（平成 30 年 2 月 16 日委員会資料）

資料２

２　かまくらまちづくり市民シンポジウムの開催概要

（1）市民シンポジウムのねらい

- まちづくりの引き金としての公的不動産の利活用であること、併せて、まちづくりの視点による本庁舎の移転整備や（進め方への指摘を踏まえた）今後の市民参画による施設整備について伝える場として、シンポジウムを開催する。
- 講演、報告、パネル対話を通じ、公的不動産の利活用による鎌倉（市全体）のまちづくりについて、次の点を市民の方々に伝えることで、取組に関する周知とともに、今後の取組へ参加を呼びかける。
  - ✓ 「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」「働くまち鎌倉」の実現が鎌倉市にとって極めて重要な課題である。
  - ✓ 上記の実現にあたり、潜在力のある公的不動産が鎌倉市には多数あることに着目し、その的確な利活用（リノベーション含む）が、今後のまちづくりにインパクトを与え、地域に新たな価値を創造することで、次代に引き継ぐ鎌倉のまちづくりの引き金となることを期待している。
  - ✓ 公的不動産の的確な利活用には、市民、民間、公共の連携と参画が欠かせない。
  - ✓ まちづくりの視点による本庁舎の移転整備について（全市的な防災力向上、跡地の魅力向上など）。

（平成 30 年 2 月 16 日委員会資料）

資料２

（2）市民シンポジウムの結果概要

日　時：平成29年12月23日（土・祝）　午前10時から正午

会　場：鎌倉商工会議所会館地下ホール

参加者：60名

大島芳彦氏の講演

鎌倉市の報告

パネルディスカッションの様子

シンポジウム会場全体の様子

時間	プログラム	登壇者
10:00～10:10	開会・挨拶	鎌倉市
10:10～10:50	講演： 「リノベーションによる 市民が主役のまちづくり」	大島 芳彦さん 株式会社ブルースタジオクリエイティブディレクター専務取締役
10:50～11:10	報告： 「持続可能なまちづくり」	比留間 彰 鎌倉市経営企画部部長
11:15～11:55	パネルディスカッション	大島 芳彦さん 増井 玲子さん （東洋大学 PPP 研究センターリサーチパートナー 鎌倉市公的不動産利活用推進委員会副委員長） 比留間 彰
11:55～12:00	挨拶・閉会	鎌倉市

（平成 30 年 2 月 16 日委員会資料）

（3）講演等とパネルディスカッションの結果概要

① 講演「リノベーションによる市民が主役のまちづくり」

大島 芳彦氏 （株式会社ブルースタジオクリエイティブディレクター専務取締役）

【概要】

・「つくること」ではなく「使いこなすこと」をデザインすることをコンセプトに設計事務所を設立。「もの」「こと」「時間」の３要素をデザインの視点としている。

・活用されていない資産を「資源」と捉え、空き家を社会の共有物として活用することを働きかけている。

・「リフォーム」は再びかたちをつくる物質的なアプローチであるのに対し、「リノベーション」は再び革新を生み出すことである。社会の流れで住宅のニーズが変わる中で、経営の考え方から新たな使い方を生み出すことがリノベーションである。

・「不動産価値の本質は敷地にはなく、地域にある」。どれだけ敷地内部価値を高めたとしても、まちに人がいなければ不動産価値は上がらない。右肩上がりの時代では価値を生み出すために個人が自由に取り組めばよかったが、今の時代は個人がまちとの関わり合いについて考えなければならなくなっている。つまり、地域の価値とは人にあり、人同士のコミュニケーションにある。

・日常の生活文化の中にどのような価値が宿っているか見直す必要があり、そこには個別性があり、地域性があり、その地域が選ばれる理由がある。そのため、付加価値という言葉ではなく、見出される価値を掘り起こし、組合せを見直し、使いこなすことで新たな価値を生み出す時代になっている。つまり見立てることから始めなければならず、それこそがリノベーションまちづくりである。それは、物をつくるのではなく、「既存の環境を生かす」「構想する・発想する」「経営する」ことによって成り立たせるものである。

・まちづくりは公主導という認識があるが、税金や補助金で賄われることに先が見えなくなってきている。そこで、民間主導で小さなまちづくりを考えること、市民ができることを日常の中から見出し、生み出すことが重要である。

・これからの時代は「使いこなす」ことが重要になる中で、当事者意識を育む必要がある。そのためには人々に共感を生むビジョンを示す必要があり、「あなたでなければ」「ここでなければ」「いまでなければ」という観点で他との違いを見出せる舞台装置や物語をつくっていかなくてはならない。

・これからの時代は、人々に選ばれるまちをつくらなければならない。座間市のホシノタニ団地では「子供たちのための駅前広場をもつまち　座間」というビジョンをもち、「あなたでなければ」「ここでなければ」「いまでなければ」

の視点から民間企業の社宅団地を再生している。

・鎌倉市民の皆様には、公的不動産だけではなくご自身の身の回りからできることを積み重ねて影響力のある魅力的な点を生み出し、その点を広げてつなげることで面にしながら、まちを活性化していくことを考えていただきたい。

② 報告「持続可能なまちづくり」

鎌倉市経営企画部　部長　比留間 彰

【概要】

・人口減少時代などの背景を踏まえ、現在の検討状況を示した「鎌倉市公的不動産利活用推進方針」の中間取りまとめの内容を説明。

・主要な公的不動産の利活用の基本方針について、５つの公的不動産の利活用による全市的イメージを説明。

・今後の流れについて、パブリックコメントの実施などについて説明。また、市職員が自治・町内会等に出向いて、取組の説明を行っていることを紹介。

③ パネルディスカッション

現在の公的不動産の利活用の取り組みが持つ可能性、およびこれを実現していく上での課題やチャレンジは？	
増井	近年、民間のノウハウや資金力を生かした事業手法が続々と誕生し、実績を上げてきている。今回の鎌倉市の取組でも、官民連携が大きな一つの柱になっており、地域価値の向上が期待される。住民には新しい機能やサービスの提供機会となり、経済的な効果としては雇用の創出や産業の活性化、市には税収や土地利用等の収入も考えられる。実現に向けての課題は、案件ごとに公共性、市民の参加性、また鎌倉らしさ、地域性や独自性を追求することである。そのためにも、計画面では行政と市民のコミュニケーションプロセスの設計がきわめて重要である。長期スパンでのスケジュールの共有ができ、このプロセスを通して地域への意識や関心を高めていくことが大切である。
大島さんの目から見て鎌倉市の今の公的不動産利活用の取り組みがどんなように見えるか？	
大島	５つのプロジェクトはいずれも官主導の大きなまちづくりの一環、延長にあるように見える。それは非常に大事な事ではあるものの、市民が「自分達はこうする」というものが見えにくい。生活者にとってのまちの感覚は、徒歩圏内の半径 2～300m 程のエリアである。その小さなエリアのビジョンを市民自らが持ち、まちづくりを自分ごととして積み上げていかなければならない。

資料２

本庁舎の移転や跡地の利活用はまちづくりとどのような関係があるか？また、それによる市民のメリットは何か？	
比留間	鎌倉市役所が移転する理由の一つは防災の観点である。今の建物を災害対策本部として機能させるには脆弱で、かつ、この地域は津波浸水区域にも入っている。深沢地域整備事業用地内の行政施設用地に移し、総合体育館や消防本部などと合わせることで、一番安全なものを提供でき、市民の方々の安心を確保できると考えている。また、鎌倉駅西口の一番近くの良い場所に事務作業で使う空間はもったいないという意見を多くの市民からいただいている。もっと市民が集い、価値を創造できるような空間として使っていきたい。
全体の活動を進めるうえで財源をどう考えているか？	
比留間	財源は、パブリックマインドを持った民間事業者の方々と共同で進めていきたい。営利の目的だけではなくて鎌倉市と市民の方々と一緒にこのまちをつくっていこうという、そういう気持ちを持った事業者の方々の協力を求めていく。市として税金を使う範囲は抑えていきたい。
市民参画をどこまで求めるべきなのか？	
大島	小さな規模の企業であれば、市民とともに参画を促していくことが重要と考える。彼らにとってこれは生産活動として生きていくための仕事と商いはセットであり、どうその地域で生きていくかのための商いになる。市民主体で市民が活動しようとすることを行政がバックアップしていく体制が一番大切だと思う。
増井	今回の案件の中には、従来のように行政が運営委託するのではなく、民間企業が自主事業として回す中で、何かしら公共的、公益的な要素を提供してもらいたいという考えのものもある。事業が成立しなければ撤退することになりかねず、これまでよりも計画プロセスから民間の自由度を高める必要があり、うまく実現するためには行政や市民の関わり方も新たな挑戦となる。
本当の意味での市民参加を得る上で参考となる事例や考え方はあるか？	
大島	市民にとっての第一の公的不動産といえば、本当は家の目の前の道路であり、角の公園であり、地域の公民館である。そこであれば、市民も地に足のついた活用策が考えられるはず。ボランタリーな活動だけでなく、生産的活動を考える。それを行政と一緒に具現化しようと考えることが本来の当事者意識であり、市民参加を越えた公民の連携だ。
市役所移転のスケジュールについて、もっと短縮してスピードアップできないものか。10 年かかっていたら、住民のライフスタイルも変わってしまう。	
比留間	建設をしていくとなると、基本構想を作って基本計画を実施して、基本設計、

（平成 30 年 2 月 16 日委員会資料）

	実施設計というスケジュールがあるので、5～6 年は要することになる。スピード感をもってやっていきたいと思うが、あまり拙速に進める訳にもいかない。じっくり市民の方々の意見を聞きながら、計画を実現していきたい。
民主導のまちづくりを目指し、当事者意識を皆が持つようになればわくわくするが、同時に日本の街並みの統一感が失われることにならないか。鎌倉でも寺社のすぐ近くに南欧風の家が建っていたりする。ヨーロッパの美しい街並みのような規制とか枠づくりが必要と思うが、日本で街並みの統一は難しいものか。	
大島	できてしまったものは受け入れるしかない。必要なのは、活発に活用されるかどうかということであり、それが変化を生み出す。都市景観が非常に美しく保存されていたとしても、活用されていなければ、本当の価値とは言えない。先人達が様々な状況の中で作り上げ、今あるものは現実として起こっていることであるが、必要なことはそれを積極的に使いこなすことである。それが鎌倉の人の営みであれば良い。
比留間	古都鎌倉と言われるが、鎌倉には統一様式を持ったまち並みが存在していない。まちにデザインコードを見つけにくいところがある。平成 20 年に景観地区のルールを定めたが、それまでは高さの制限もなく、無制限に建てられる状態が続いていた。現在、由比ガ浜通りで、地元の建築家の方々が業者から出てきた申請をレビューしており、設計者に逆提案をするというやり方を 10 年くらい行ってきた。そうするとその地域のデザインコードや文脈らしきものが見え始め、いいお店も少しずつ増えてきている。鎌倉の場合はこういう新たな価値づくりをしていくことが必要だと感じる。
増井	景観条例のような行政主導のルールづくりもそうだが、鎌倉市の場合、自主規制的なものが結構働いている地区があるように感じている。ある時期、特に開発が激しかった時代には様々なものを取り壊して新しい要素を加えたのだが、鎌倉は頑張って守ってきている。そのことが最近になって高い評価を受けているように思う。民間の肌感覚で守っていける部分というものもあるのではないか。

資料２

④　質問の内容（原則、原文のまま全て掲載（一部誤記等を修正）。順不同。）

当事者意識・参画について
・当事者意識を持つには「共感」が必要とのことでしたが、老若男女がいる”まち”という単位で共感を得るというのはとても難しいことだと思います。共感を得るための具体的な方策、手法はどのようなものがありますか。ハードではなくソフトの面で。 ・大島さんのお話で「潜在価値」を見立てるアイデア＝なぞかけのように共感力を持つ物語を作るというアプローチ、物語は「あなたでなければ」「ここでなければ」「いまでなければ」というキャスト、シーン、シナリオの力によって強い共感力を持ち、消費者（市民）を当事者に変える、市民主義のリノベーションまちづくりというコンセプトには大変共感しました！その前提で３点質問があります。 ①象徴的例として「由比ガ浜ショッピングセンター計画」が上げられます。〇〇でなければ×3つの物語が全くなく市民の共感を得られていません。公的不動産だけでなく民間だけで行われてしまう、こうした取引・開発計画、パブリックマインドの欠けた事業者による愚行を今後起こさないために、どのようなアイデアが考えられるのか?良い事例はあるのか? ②市の公的不動産利活用方針の1,2,3を見ると、「市民の豊かなアイデア」を活かす要素が不足しています。パブリックコメントは出すだけで一方通行です。（市民の中にプロも多いし潜在価値への理解・見識も深くアイデアも多いのに）市民が当事者となり「物語」を紡ぐことに重きを置いた参画方法を検討してないのか? ③市民が公的不動産の利活用の物語作りのプロセスに当事者として参画するためのフレームはどう作れるか?良い事例はあるか？〃 ・「地域に価値あり」「経営目線」「見立て」非常に共感できますが、民間主導、いわゆる住人主導となる様々なリスクに対して臆病になりがちかと思います。（本当にその見立てで良いか？仕掛けが間違ってないか？など）リスクが無いモノ、コトは世の中にありませんが、仕掛け側、サポート側として、リスクに対する心構えや分散方法など御助言できる事があれば教えて下さい。 ・本庁舎移転は「跡地を考える！」と説明会の開会の言葉にありました。市民の中にそんな意識があるのでしょうか。鎌倉市全体の将来像が見えるデザインはどこに示されていますか。「市民が主役の」の言葉が空しいのか鎌倉の実態と多くの市民はあきらめ気味の空気が沈滞しています。まちづくりのデザインを市民から募集していますか
財源・予算・資産把握について
・現庁舎の改修費用、新庁舎の建設費用いずれも市民の税金が投入されると思いますが、市の予算のバランスを十分計算しておられるのか?具体的なお話を聞きたい。 ・財源をどう考えるのか ・予算計画がよくわかりません。赤字が数十年続く気がします。 ・公的不動産は市の資産です。資産としてきちっととらえるならバランスシートの導入は必須です。この件をどう考えていますか？有効利用の指標になる等定性的でなく定量的な価値を示すべきです。 ・公共建築物などの維持費を半分に削減するのはどのようにして削減するのか知りたい。
公民連携について
・公の事業を民に任せるとき選定の手法・ポイント ・市民合意をどこまで求めるべきなのか ・今後の街づくりについて　官・民＋研究所・大学などアカデミックな要素を取り入れることがイノベーションを加速させると考えているか研究・開発機関との連携について何か施策や考えはありますか？ ・もし市役所が移転されたら跡地利用の民間参加は公平にできるのか ・これから市政と市民、つまり公と民の役割、変化すると考えられますが、どのような未来図を考えられますでしょうか？

（平成30年2月16日委員会資料）

資料２

総合デザイン、ビジョンについて
・個々の利活用よりも鎌倉市のまちづくりのグランドデザインとはまた、そのグランドデザイン形成の方法は？ ・鎌倉地域発展のためのフォーミュラーについて　理念→仕組み→継続　「仕組み」についてのお考えを述べて下さい。 ・4 分の 1 世紀後鎌倉市の人口、財政規模、市域（街としてのまとまり）の広さをどのように想定しているか、又は目標をするべきか？ハード、ソフトを合わせて守るべきまちの魅力、創るべきまちの魅力の方向をどう考えているか。資産になるべき（100 年～200 年耐用する）建築はどう作るべきか。 ・（鎌倉として）オリンピックをどうむかえ、どう変化させるか、気になります。 ・30 年先の鎌倉にとって必要な判断なのか？その判断基準は何なのか？30 年先の”鎌倉市の在り方”から導かれる地域社会の設計力が問われている。 ・地域鎌倉の「温故知新」の 2 次元的空間から新しい発展を望まれる知識情報空間が融合した、いわば「3 次元空間」（地域）になるために必要なことは出来るのか？ ・新しいまちをつくると今までの街をさびれさせてしまうような気がしますので街の再開発という考えを中心に考えてほしい。特に北鎌倉は生活のにおいがしない。観光客のための街になっていくのがさびしい。
防災拠点について
・市民、観光客、事業者、道路等の通過者のための広域避難場所の確保はどう計画していますか？私は七里ガ浜東と奥稲村が崎全域を広域避難場所にして、理想的な被災拠点造りを考えていますが？市内に海峡 30m40m以上の同様の拠点の計画等はありますか？
計画について
・市役所移転のスケジュール　もっと短縮してスピード UP できないのでしょうか？10 年もかかったら今の住民のライフスタイルも変わってしまいます。（死んでしまう）
具体的な利活用案件について
・築 50 年以上の市営住宅、残しておく所もあるようですが、意義は？統合して土地を活用してほしい。 ・野村総研跡地などは結構前から話が出ていると思いますが、実際のところ利用法の決定が進まないのはどういった原因が主にあるのでしょうか。他の公的不動産の利活用推進の足かせになっている要因で共通するものがあれば教えてください。 ・資生堂は企業誘致可能かもしれませんが、野村はかなりイノベーティブな戦略がないと企業誘致が難しいのでは？（シリコンバレーにするとか、そのような企業にインセンティブを与えられるのか？） ・鎌倉市には野村総研跡地、扇湖山荘をはじめ、寄付を受けた邸宅群を多数抱え、固定資産税収入を失う一方で、その活用は全く長い間ないがしろにされている。今経営企画で取り上げている公的不動産利活用の推進もそれを問題意識の一つとしているとは思うが、その利用を推進するために一番重要なことは何か。特に利用をはかるための方法論は何か良いアイデアがあれば教えて欲しい。 ・すでに一部利用されている華頂の宮、吉野信子邸、大仏邸、…についてもその稼働率はきわめて低く、それらの施設の管理運用は市の各課にバラバラに分担されている。利用効率市民福祉交流の役に立てるためには、利用効率の UP の観点から、もう少しまとめて具体策を考える責任体制が必要と思うがどうか？ ・梶原 4 丁目の野村総研跡地の利用、早期活用について、検討中という御返答ではない御返答をお願い致します。私自身の提言は、研修施設（宿泊可能）を建てて、海外共の研修生に提供をです。すでに数回市長宛に差し上げております。メッセージ（用紙）etc で。
街並み・景観について

（平成 30 年 2 月 16 日委員会資料）

・「民主導」の小さなまちづくりを目指し、当事者意識を皆が持つようになればワクワクしますが、同時に、日本の街並みは、和風の隣にヨーロッパ風やモダン建築というようにチグハグで、鎌倉でも、寺社のすぐ近くに南欧風の家が建っていたりします。メインストリートの１つ、小町通りもどんどんハデな、どこにでもあるゴチャゴチャした通りになっています。ヨーロッパの美しい街並みのような「規制」「枠作り」が必要と思いますが、日本で街並みの統一は難しいでしょうか？〞 ・鎌倉の街並みがかつての清里など雑然としたり、全く調和のとれていない色調デザインの建物が増え、古都・歴史・文化のある街としての魅力が失われてきている。街としての魅力（住人＆観光客にとって）ある街づくりを鎌倉市としてつくる必要性をどうお考えでしょうか？ ・独自のルール（建物の高さ制限や樹木座にコンビニなし等）について、緩和させるべきか、維持するのか「らしさ」を保つうえでどうするか。
高齢者対応について
・今後ますます増加していく高齢者層が「支援されるだけの存在」ではなく「いつまでも地域に貢献・活躍できる存在」でいられる街づくりを希望します。居住地の近くで、無理なく働けて、少なからず収入を得られれば、若い世代に依存しなくてすむのではないでしょうか？
子育ての場づくりについて
・子供がいないと市が活性化できないというが鎌倉の児童施設はあまりにも貧弱（孫は目黒区にいるが目黒と比べると雲泥の差、実際鎌倉市を出ている若い人が多い。本当に子育てを考えているなら市役所移転より児童施設の充実を図るべきと思うがどうか
ＩＣＴについて
・もう 10 年もすれば ICT の更なる発達やテレワーク化、ライフスタイルの変化も期待でき、日本有数のブランディング価値を既に有している鎌倉は、コワーキングシティとして住＋遊＋就がバランスよく創れるのでは？と期待する部分もあります。10 年後、20 年後の ICT 技術の変化を鑑みて鎌倉のもてる可能性についてパネリストの皆様が思い描くものがあれば教えて下さい。
交通網について
・利活用のプランを推進するには、これらを結ぶ市全体の交通網の整備が不可欠である。深沢地区と旧市庁舎を結ぶ道路、玉縄地区と深沢地区を結ぶ道路、バス、梶原４丁目地区へのアプローチ等々利活用計画に合わせて鎌倉市の交通計画を推進すべきと思うがいかが、交通網の整備は人の行動と考えを誘導し、良いコミュニティ形成のために経済的効果（遊休地活用）以上の意味を持つ。 ・ロードプライシングについて、消滅してしまっている様にも感じていますが？具体的な進行状況はどうですか？
大学の誘致について
・大学観光学部の設置は利活用手段の１つとして考えられると思うがその対応は。波及効果は大きいと思う。
進め方・体制づくりについて
・利活用のテーマは市の組織横断的に取り組むものと思う。体制はできているか。
宿泊、滞在施設について
・長期滞在・宿泊滞在での観光を増やすことで観光収入の増加が見込めると思うが、鎌倉市は旅館建設できる用途地域が少なくなり旅館を増やしていく点でもハードルがあると思う。今後、旅館業や民泊（その他商業系の用途（住宅以外））に対してどのように考え、取り組む予定でしょうか？（低層～2 種中高層）＆市街化調整区域
規制緩和について

・空き家活用においても住宅系用途地域や自治体の反対など新しいサービス（企業誘致）や活用を拒むものが多いと感じます。条例での緩和等何か施策は検討されているのでしょうか？また、規制がある中での空き家活用を進めていく上で、どのような働きかけが有効か、もし事例があれば教えてほしいです。

多様性の創出について

・鎌倉は不動産価格が安くないのですが、その中でストック活用を考えると、低所得者層を呼び込むのはむずかしく、結局多様性を生むのは難しいのではないでしょうか？→手頃な賃貸を提供できるしくみがあるとよいのですが教えて下さい。

市役所移転について

・「深沢」に移転先は決まっているのになぜ時間をかけ遠回しに深沢へと話を持っていくのか。形だけの話し合いのようにしか思えない。
・説明資料 P.27 では市役所本庁舎の移転先は深沢を移転先としますとありますが、今までの市民対話及び本日の比留間部長のお話でも決定しているという話は聞いておりません。どういうことでしょうか？
・市役所機能の移転のタイミングとそれまでの空き地活用について伺いたい。（深沢の空き地の放置は 10 年ではおさまらないのでは。）
・市長は鎌倉のすぐやらなければならない課題を市役所の移転といった。私には、現在の市役所が不便とは思わない。移転する必要は全くないし、各支所も重要である。それよりも児童施設、小中学校の整備、老人福祉などを充実させることが今すぐ必要と思う。市役所が移転して「立派」になり市民の施設が「貧弱」なら本末転倒だろう。なんで市役所移転を急ぎ市民生活のための施設をあとまわしにするのか？

市民への周知、説明、対話等について

・市民合意をどこまで求めるべきなのか
・公的不動産への市民参加はだれが主導すべきと思うか。
・特に市役所移転について、出前講座はどこへ、何回行いましたか？今日まで 3 回の市民集会の参加者、のべではなくダブっている人も多いと思いますが、何人くらいでしょうか？
・多くの市民は市庁舎が深沢に移転することを知らなかった。現在の支所が廃止されるということはすでに決定しているのですか？あまりにも”市民参加の市政”といいながら市民への説明が足りなすぎと思う。各市内の自治会に市から出掛けて行って説明し、市民に納得してもらうことから、再スタートしてほしい
・対話に子育て世代のママ、パパは入っていますか？障がい者は入っていますか？市民代表はその方々の意見も代理で話せますか？
・市政に、市民の幸せを測る考え方、それを増やす考え方はありますか？

文書館、資料館の設置について

・鎌倉の魅力・潜在力は中世の歴史と共に明治時代以降の近代の特異な歴史にあると思います。その歴史を証明づける資料の収集、保存、学習が急務です。市民の生涯学習の意味も大きい。そのための近代史文書館・資料館の設置を強く希望するものです。公的不動産の再編にあたり要望します。市民と行政の共同で 10 年間「かまくらの女性史 4 冊」を編さんした実感からの強い要望です。公的不動産の一部を近代史文書・資料学習館として市民と共同で運用する施設を具体的に検討していただきたい。このような問題・提案の窓口はどこの部門でしょうか。
・地域の価値を再認識する資料館の設立
・今日の鎌倉史の問題は「鎌倉の近代史の不在」が背景にあると思います。近代史の研究を進展させる必要がある。鎌倉市には近代史を扱う施設（名称は文書館、資料館、博物館など）がありません。中央図書館の近代史資料室では不十分です。明治以来 150 年、この間の鎌倉の歴史を扱う拠点をつくる必要があると思います。旧図書館の施設はその設立の趣旨からふさわしいと考えましたが、結果として学童の施設になりました。今日

の再編の中で近代史の拠点をぜひ整備してほしい
物件の魅力の向上について
・リノベーションをするもとの建物に全く魅力がない場合でもなにか「良くするコツ」みたいなものはお持ちですか？
その他のご意見（市民対話について等）
・1 回目、2 回目の市民対話ではどんなお話が出たのでしょうか。1 回目に都合がつかず出席できなかったので後日経営企画にお話をお伺いに行きました。その時追って HP 等で報告いたしますとお答えいただいたのですが HP を見ても経過報告等がありません。情報を共有して今回のシンポに参加したかったのですが、それはなぜでしょう。 ・市民から質問ではなくてどのような鎌倉をつくりたいのか意見をとることが大切なのではないかと思った。 ・市役所等の移転について、5 回の議論を経たというが、多くの市民には寝耳に水であった。もっと多くの市民が討論にかかわらなければ「議論」したとは言えない。一応議論したというアリバイ作りのようなもの。多くの市民が知らないうちに議論を進めているのを「反省して」、再度話し合いの場を設ける等はあるのか ・鎌倉市長松尾さんはなぜ出席しない？市長の HP は深沢移転が大々的に PR している公的不動産利活用にしても深沢に移転を前提にヒルマさんが会話している ・移転ありきの理由は？ ・3 回目行う時に 2 回目の内容のまとめが出されてない理由は？ ・事例に出ていた座間駅の団地についてですが「安いからこの座間に住んでいるお母さん方を集められる子育てセンターを設置する」と書いてあったが、そのような下調べをどの様にして行ったのかが教えてもらえますか？ ・鎌倉市に寄贈された不動産は全て公的不動産（歴史的建造物含めて）ですか。その一覧表は市役所のどの担当にいけばいただけますか。（その活用予定・保存状態についての進行状況についても記入している） ・資料全般、元号ではなく、西暦にして下さい！

（4）アンケートの結果（n=46、回答率約 77%）

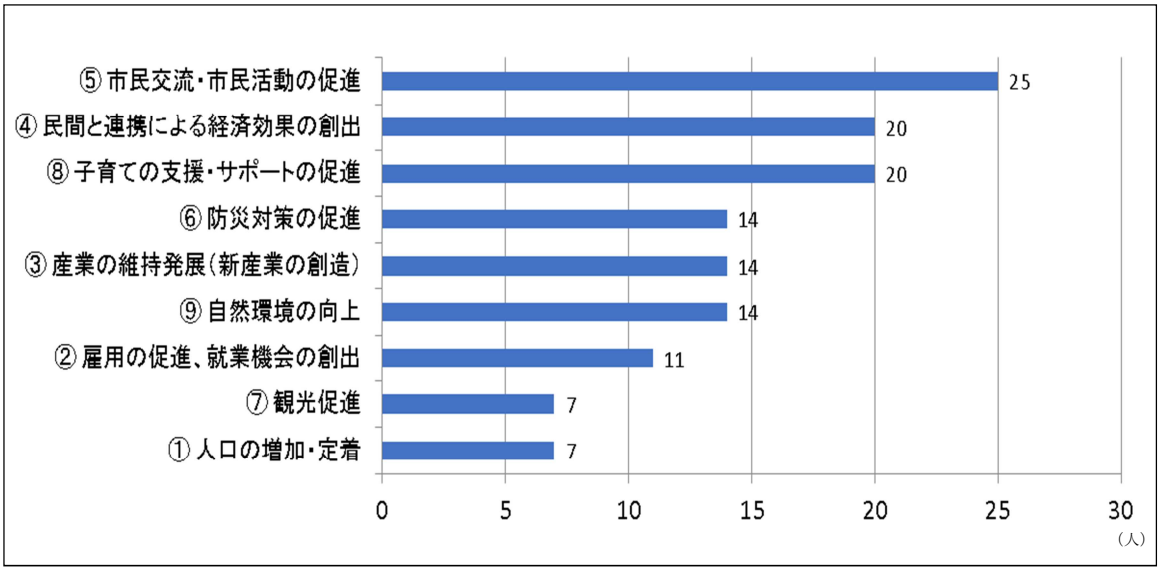
① 設問１の回答状況

設問：かまくらまちづくり市民シンポジウムは、いかがでしたか。当てはまる数字を〇で囲んでください。

面白かった・ためになった		（中間値）	面白くなかった・ためにならなかった		無回答
5	4	3	2	1	
17人	12人	９人	３人	２人	３人
約37%	約26%	約20%	約６%	約０%	―

② 設問２の回答状況

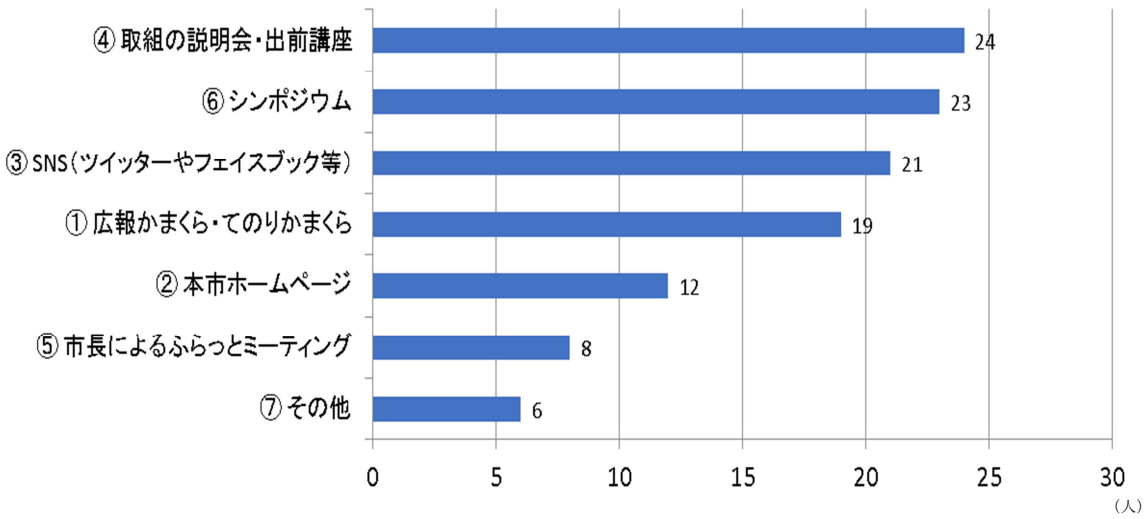
設問：鎌倉市が進めている公的不動産の利活用による効果として、特に期待したいと思うもの（上位３つまで）を〇で囲んでください。



回答者46人に対して最も回答が多く、約６割の方が選んでいた選択肢は「⑤市民交流・市民活動の促進」でした。次いで約４割の方が「④民間と連携による経済効果の創出」と「⑧子育ての支援・サポートの促進」を選んでいました。

③　設問3の回答状況

設問：公共施設再編（本庁舎・跡地の整備などを含む）の取組の周知・説明方法として、特に期待したいもの（上位３つまで）を〇で囲んでください。



※「その他」の自由記入には、「YouTube」、「もっと大規模な説明会」、「パンフの作成と戸別配布」などがありました。

回答者46人に対して最も回答が多く、約５割強の方が選んでいた選択肢は「④取組の説明会・出前講座」でした。次いで半数の方が「⑥シンポジウム」を選んでいました。

④　設問４（自由記入）の主な回答

（原則、原文のまま全て掲載（一部誤記等を修正）。順不同。）

設問：今後の公共施設再編（本庁舎・跡地の整備などを含む）に対する市民参画の方法について、ご意見やアイデアをお聞かせください。

分類	意見やアイデア
公的不動産利活用の考え方	・自分ごとにするための、自分ごとの公共施設に対して、対話を進めた方が良い。今は、市の行政がやりたいことを"シンポジウム"という場で"市民の声を聞いたことにして"進めているなと思いました。「私達は市民の代理でやっている感」がひしひしと感じました。 ・不動産の活用も大事であるが、現在の公共施設（支所、xxx社会xx生活xxセンター）等のトイレなどの改善が優先されるべき ・新たな観光案内所 ・近現代史資料収集保存学習館を市民・行政と共働でとりくむ。このことによって、鎌倉の真の魅力・歴史を学ぶことが、同時スタートの必要がある。土地の魅力は資料の中から学ぶ、知る。これが原点。原点をスタートする場を市と行政で設立する。 ・税金の有効活用。・鎌倉に住むことによる価値向上 ・大島氏の意見大変有意義です。

	・市役所等にマンション等で利益を!! ・大島講師の発言に共感した。今後の計画に反映してほしい。 ・５ヶ所にしぼった利活用という点でなく、広く利活用を考える視点で計画があり、その上での個別計画としていくべきと思いました。 ・市民の多くが参加し、市役所等の移転について話し合う場をつくるべき。市役所移転は絶対に拙速にすべきでない。 ・各地域に計画を委任する。
市民とのコミュニケーションの方法、プロセスについて	・開催を知りませんでした。知らない市民は多いと存じます。 ・急には思いつきませんので、パブリックコメントの機会に提出させていただきます。今日のようなシンポジウムでも、2時間ではなく、この後に意見討論の機会をプラスする、もしくは後日各々準備して討論する場があると幸いです。回覧板で告知して頂けると有難いです。いつもどうでもいいような内容ばかり、このような大切な取り組みこそ載せてほしい。 ・市の方針計画はともかく市民（参加した人）の声をフィードバックをスピード感をもって公開してほしい。 ・理想論を言っている場合ではないので、具体的にいつ、どこがどうなるか、はっきり発信してほしいです。そこで賛成か反対か、なぜ反対か市民に問えばいいのでは。もやっとした意見ばっかり聞いてたら、いつまでも決まりませんよ！ ・鎌倉市長の参加はmust（大きな内容）アイデアは山のようにある。 ・市民への説明が不足していると思われます。もっと周知徹底の方法を模索されるべきではないでしょうか。 ・学生などの若い意見も取り入れるために市内の学校、大学とも協力が必要なのではないでしょうか ・アイデアソン ・公共施設再編の計画自体に、市民の心や生活という視点より、街作りのセオリーやあるべき論が軸になっているようにも感じるので、市民同士の対話から生まれるアイディアを大切にしたらもっとよくなると思う。説明ではなく、ディスカッション。アイディアの集め方も一方通行にならないようにして欲しい。 ・具体的意見をよく個別に聞いて、活かせるアイディアを活用してください。 ・市内の小中高生から意見を集める。 ・鎌倉にある図書館（本館、地域館４ヶ所）において、中規模の説明会を行い、意見集約したら如何ですか？ ・公募＋市内の高・大学生。なるべく若い人が集まる方法の検討。 ・市民を集めるのではなく、市から積極的に出て行くべき。 ・朝まで生討論とか、金がかからずメディア露出ができるイベントを立ち上げるとか。話題にするのは非常に大事かと。 ・市民主導のイベントのサポート。自発的市民中心に。・大きな報告会でなく、簡単なアンケート、意見交換会。 ・地域の特質がすでに出来上がっていると思う。再編に住民がついていけるかが心配。その為、地域にそれぞれ出むき、ていねいな変化についての説明が必要とされる。 ・市長をパネリストの一人になって頂いて、有志によるシンポジウム。

	・市の機能・目的別の協議会と市民との絶えざる密な意見交換。すり合わせを含む。協議会（地域別）の設置−特に具体的政策のためには必要と思う。意味のある「市民からのパブコメ」は具体策についてのある程度の絵が描けた後が最適ではないのか？ ・「民間」に市民及び市内中小企業が含まれていないように見えるのが大変残念。パブコメもいいが、出すだけで一方通行。シンポジウムと説明会もまた逆の一方通行。「まち」の潜在価値を深く日々知り、体験し、未来のアイデアを豊かに持っている市民も多く様々なプロフェッショナルも多い。また鎌倉をあえて選択しているベンチャー、鎌倉に長く根付いた老舗企業も多い。これらをプロジェクトメンバーとして加えた、前例にとらわれない挑戦的なやり方を作るべき。例えば「百人委員会」とか銘打ってメンバーを募集するのはどうでしょう？やるのであれば、チームビルディングもファシリテーションも全力で支援します!!比留間部長のプレゼンもご発言もとても骨太で根っこにビジョンと確信があるパワフルさと説得力があり、意気込みが届いたと思います！素晴らしかったです！！ ・質問をセレクトしすぎている ・もう少し若い人を巻き込む手法を考えたい。（例えば若手職員チームを作って若い人の目にとまる様なSNS発信、みせ方の工夫、公の宣伝周知にとらわれない発信をしてみては？広告という感覚で。ファッショナブルに。ゲストも若い人に人気の著名人など） ・市民の関心がますます高まり、増えていることを感じます。このプロセスこそ良い結果につながると思います。 ・広く一般市民が参加できる様なシステムを、この再編計画に関してあまり市民に知られていないのが実情 ・大島さんの話は役所の方も市民の考えも変わったと思います。このようなシンポジウムをもっと市民に参加してもらえるようにするのがいいと思います。

⑤　アンケート回答者の属性

性別	男性			女性			未記入
	34人			12人			０人
	約73.9%			約26.1%			―
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	未記入
	０人	９人	５人	４人	10人	18人	０人
	０%	約19.6%	約10.9%	約8.7%	約21.7%	約39.1%	―

市民対話参加	両方参加	10/29のみ	11/18のみ	どちらも不参加	未記入
	７人	５人	６人	26人	２人

４　まとめ

このシンポジウムは、広報かまくらやてのりかまくら、前回までの市民対話や自治

町内会などに出向いて行う出前講座に加えて、パブリックコメントのお知らせを含めて、更なる取組の周知・理解を図るために開催しました。

パネルディスカッションでは、時間の都合上全てに対応することはできませんでしたが、いただいた多くのご質問を基にした進行により、大島氏からの示唆や、市からの取組の詳しい解説などが行えたと考えています。

また、アンケートではシンポジウムを評価していただいた意見の他、市民参画のアイデアなどをいただきました。今後も、公的不動産の利活用の推進と併せて、周知・理解を図ることについてもしっかりと取り組んでいきます。

事務担当：経営企画部経営企画課
公共施設再編推進担当